

中小都市における住民の 図書館利用行動分析

— 北広島市図書館利用登録・非登録者調査
を事例として —

Library Use Pattern Analysis of Residents
in Mid- and Small-Sized Cities
— A Research Report on Library Users and
Non-Library Users of the Kitahiroshima City Library —

河 村 芳 行

1. 調査の目的と方法

1-1 調査の視点と目的

平成15年度の北広島市民全体に占める図書館登録率は35.8%で、公共図書館の全国平均登録率35.3%、北海道平均登録率29.9%から見ればわずかではあるが高い数値を示している¹⁾。しかし換言すれば、およそ3分の2の住民が非図書館登録者であり、非図書館利用者であるということになる。つまり、大多数の市民は公共図書館をほとんど利用しておらず、一部の高頻度利用者である市民が公費負担による公共図書館サービスの大部分を享受しているというのが実状であり、一部有料化説が浮上するのも納得でき

よう。

現在のような高度情報ネットワーク社会、生涯学習社会、高齢者社会などと言われる社会情勢の中で、公共図書館が市民の情報アクセス権、学習権、生活権などを公的に保証する市民の生涯学習の場であるという前提にたてば、図書館は一人でも多くの市民を登録者として獲得し、かつ活発に活用されるように努めて行かなければならない。こうした点から、「図書館を未だ利用していない人々」や、「以前には利用していたが現在は利用しなくなってしまった人々」が、どのような属性の集団であるのか、利用者と非利用者の相違はどこにあるのか、また、どのようにすれば図書館は利用されるようになるのか、などについて考察することが本調査の目的である。

1-2 調査の方法

図書館非利用者の属性や行動様式の特徴を捉えるためには、図書館利用者と非利用者を含んだ包括的な住民調査が必要である。

そこで、本調査は北広島市図書館の協力により、北広島市が平成15年6月に住民基本台帳から20歳以上の住民を無作為抽出し、600世帯を対象に実施した郵送による市政モニターアンケート調査²⁾の一部として本調査票を同封させてもらう形で実施した。回収数は205世帯（回収率34.2%）であるが、同居している家族全員に回答してもらう形式にしてあるため542人の回答サンプルが得られている。

2. 抽出住民の構成

抽出住民の属性及び、北広島市全人口データをまとめたものが<表2-1>である。アンケート票と住民基本台帳の年齢の刻みが低年齢層で異なるため一概には比較できないが、その他の世代では各年齢層ともほぼ同じ割合となっている。また、地区別抽出世帯数は、東部地区136、北広島団

年齢	属性	性 別			職 業 種 別																
		合計(割合)	男性	女性	農業	商工 サービス 自営業	小計	専門・技 術職	管理職	事務職	販 売	サービス	保安職	農林水産	運輸・技能	建設・その他	主婦	学生	無職		
抽出住民数	0～5	23	4.2%	12	11														23		
	6～12	31	5.7%	19	12													31			
	13～15	24	4.4%	14	10													24			
	16～19	30	5.5%	15	15													27	1		
	20～29	54	10.0%	25	29			32	7		5	5	6		1	3	5	5	15	2	
	30～39	67	12.4%	24	43			39	11		8	3	5			2	2	8	24	4	
	40～49	63	11.6%	32	31	1	1	37	10	5	6	3	3	2	1	1	3	3	21	3	
	50～59	109	20.1%	52	57	1	6	53	11	8	17	2	6			3	4	2	37	11	
	60～	141	26.0%	73	68			2	23	2	7		2	1	2	1	1	2	5	26	90
合 計	542	100.0%	266	276	2	9	186	41	20	37	15	21	4	2	8	14	24	113	98	134	
北広島市全人口	0～9	5,348	9.0%	2,784	2,564	職業別人口	24,424	3,795	1,282	4,719	3,540	1,945	489	752	1,357	6,451	94				
	10～14	3,350	5.7%	1,697	1,653																
	15～19	3,992	6.8%	2,018	1,974	合計(人)															
	20～29	7,446	12.6%	3,694	3,752																
	30～39	7,483	12.7%	3,653	3,830	地区別人口	59,103			14,851		18,608		5,752		16,701		3,191			
	40～49	8,133	13.8%	3,905	4,228	登録者数	19,999			5,322		7,040		1,239		2,748		758		36	2,856
	50～59	10,351	17.5%	4,909	5,442	登録率 * 2	29.0 (%)			35.8%		37.8%		21.5%		16.5%		23.8%			14.3%
	60～	13,000	22.0%	6,043	6,957	* 1															
	合 計	59,103	100.0%	28,703	30,400	地区別抽出世帯数 600(軒)				136		199		56		178		31			

*2 北広島市全人口データは住民基本台帳（平成14年10月末現在）、及び北広島市図書館活動報告（平成13年度）による

利用の有無が未回答の者22名を除いた520名を対象に、北広島市図書館の利用の有無を次頁の4つのグループ（利用・前利用・未利用・非利用）に分けて、1）属性や社会的背景などが個人の図書館利用の有無にいかに関係しているか、2）利用者は主にどこの図書館をどのくらいの頻度で利用しているか、3）現在は図書館を利用していない、または利用したことのない者はどのような理由によるものなのか、などについて考察する。

①現在図書館を利用している集団。 (利用：230人)

②以前は利用していたが、今は利用していない集団。 (前利用：60人)

③北広島市図書館を未だ利用したことがない集団。 (未利用：230人)

④未利用者に前利用者を加えた現在は利用していない集団。

(非利用②+③：290人)

3-1 性・年齢・職業別

＜表3-1＞は、①＜利用＞、②＜前利用＞、③＜未利用＞、④＜非利用（前利用＋未利用）＞別に、性・年齢・職業をまとめたものである。現在図書館を利用している者が230人（44.2%）、前利用と未利用を合わせた現在は利用していない者が290人（55.8%）となっており、図書館登録率29.5%^③からみると、図書館利用者からの回答の割合が多くなっていることが分かる。これは、図書館利用者の方が非利用者よりも図書館運営に関して強い関心を示しており、積極的にアンケートの回答を返送してくれた結果の現れと言えよう。

男性では62.0%が＜非利用（前利用＋未利用）＞であるのに対し、女性では逆に50.2%が＜利用＞であり、女性の方が男性よりも図書館利用者が多い。男性の利用の少ないことの理由としては、市外に職場を持つ割合が高いため平日は利用できないこと、また、男性は女性に比べて購買能力が高いことなどが考えられる。しかし、先に行った来館者調査^④では休日に男性勤務者の来館が多いことが確認されており、閉館時間を遅くすることによる開館時間の延長といったサービス改善により利用者としての取り込みが充分見込める。

年齢階層別比率では、「0～5歳」には当然＜非利用＞が多いが、「6～19歳」までは＜利用＞が60%以上の高い比率を占めている。一方、20歳以上では「30～39歳」を除き、すべての年齢層で、＜非利用＞が＜利用＞を上回っており、年齢が高くなるに連れて＜非利用＞の率が高くなっているこ

とが読みとれる。

表 3 - 1 <性・年齢・職業・通勤通学・学歴別> 人数(%)

属 性		① 利 用	② 前利用	③ 未利用	④ 非利用 (②+③)	合 計 (①+②+③)
有効回答数(%) * 1		230 (44.2)	60 (11.5)	230 (44.2)	290 (55.8)	520 (100.0)
性 別	男 性	97 (38.0)	34 (13.3)	124 (48.6)	158 (62.0)	255 (100.0)
	女 性	133 (50.2)	26 (9.8)	106 (40.0)	132 (49.8)	265 (100.0)
年 齢	0～5歳	6 (30.0)	1 (5.0)	13 (65.0)	14 (70.0)	20 (100.0)
	6～12歳	27 (87.1)	2 (6.5)	2 (6.5)	4 (12.9)	31 (100.0)
	13～15歳	15 (65.2)	7 (30.4)	1 (4.4)	8 (34.8)	23 (100.0)
	16～19歳	18 (60.0)	3 (10.0)	9 (30.0)	12 (40.0)	30 (100.0)
	20～29歳	23 (44.2)	4 (7.7)	25 (48.1)	29 (55.8)	52 (100.0)
	30～39歳	34 (52.3)	6 (9.2)	25 (38.5)	31 (47.7)	65 (100.0)
	40～49歳	28 (45.2)	13 (21.0)	21 (33.9)	34 (54.8)	62 (100.0)
	50～59歳	36 (35.0)	12 (11.7)	55 (53.4)	67 (65.1)	103 (100.0)
	60歳以上	43 (32.1)	12 (9.0)	79 (59.0)	91 (68.0)	134 (100.0)
職 業	農業	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
	商工サービス自営業	3 (33.3)	1 (11.1)	5 (55.6)	6 (66.7)	9 (100.0)
	勤務者 (小計)	61 (34.3)	20 (11.2)	97 (54.5)	117 (65.7)	178 (100.0)
	専門・技術職	20 (50.0)	5 (12.5)	15 (37.5)	20 (50.0)	40 (100.0)
	管理職	4 (21.1)	1 (5.3)	14 (73.7)	15 (79.0)	19 (100.0)
	事務関係	16 (45.7)	7 (20.0)	12 (34.3)	19 (54.3)	35 (100.0)
	販売関係	2 (13.3)	2 (13.3)	11 (73.3)	13 (86.7)	15 (100.0)
	サービス関係	7 (38.9)	1 (5.6)	10 (55.6)	11 (61.1)	18 (100.0)
	保安職業関係	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	4 (100.0)
	農林漁業	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
	運輸・通信関係	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	8 (100.0)	8 (100.0)
	技能工・建設及び労務作業者	6 (46.2)	0 (0.0)	7 (53.9)	7 (53.9)	13 (100.0)
	その他	5 (20.8)	1 (4.2)	18 (75.0)	19 (79.2)	24 (100.0)
	主婦 (パートを含む)	48 (44.9)	13 (12.2)	46 (43.0)	59 (55.1)	107 (100.0)
	学生	70 (72.2)	15 (15.5)	12 (12.4)	27 (27.8)	97 (100.0)
	無職	48 (37.8)	11 (8.7)	68 (53.5)	79 (62.2)	127 (100.0)
通勤 *学勤 2 先	北広島市内	76 (51.4)	20 (13.5)	52 (35.1)	72 (48.7)	148 (100.0)
	北広島市外	69 (41.3)	22 (13.2)	76 (45.5)	98 (58.7)	167 (100.0)
学 歴	なし	75 (39.5)	17 (9.0)	98 (51.6)	115 (60.5)	190 (100.0)
	小・中学校	41 (43.2)	10 (10.5)	44 (46.3)	54 (56.8)	95 (100.0)
	高等学校	89 (46.1)	17 (8.8)	87 (45.1)	104 (53.9)	193 (100.0)
	短大・高専	39 (43.8)	14 (15.7)	36 (40.5)	50 (56.2)	89 (100.0)
	大学	40 (42.6)	14 (14.9)	40 (42.6)	54 (57.5)	94 (100.0)
	大学院	6 (75.0)	0 (0.0)	2 (25.0)	2 (25.0)	8 (100.0)
* 3	その他	8 (29.6)	4 (14.8)	15 (55.6)	19 (70.4)	27 (100.0)

* 1 利用の有無が不明の者22名を除く

* 2 通勤・通学先が不明の者、<利用>10名、<前利用>1名、<未利用>4名を除く

* 3 最終学歴(あるいは在学中の学校)が不明の者、<利用>7名、<前利用>1名、<未利用>6名を除く

職業種別では、自由に使える時間の量を反映してか、<利用>の比率は学生が72.2%と最も高く、次いで主婦44.9%、無職37.8%、勤務者34.3%の順である。学生以外はどの職種も、<非利用>の割合の方が高い。

先の年齢と合わせると、小学生・中学生・高校生といった学生層と、ちょうど小学生ぐらいの子供を持つ「30～39歳」の主婦層とで<利用>の割合

が多くなっており、来館者調査、登録者調査の結果と符合している。

学歴別では、一般的に教育レベルが高くなるほど＜利用＞の率が高くなる傾向にあると言われており、今回調査でも「大学院」修了者で＜利用＞が75%と高い傾向を示しているが、サンプル数が少なく信憑性に欠ける。一方、小学生から大学生までの各学歴において、ほぼ同様に40%台の利用を示しており、むしろ今回調査からは図書館利用に関して学歴の影響は認められないと言える。

3-2 ＜利用＞・＜前利用＞・＜未利用＞別

＜前利用＞のグループでは、男性が56.7%、女性が43.3%と男性の方がやや多い。年齢は40歳以上の各年齢層において20%台を示しており、40歳代以降の人々で61.7%占めている。職種は、勤務者33.3%、学生25.0%、主婦21.7%の順である。すなわち、図書館を以前に利用していたが何らかの理由で今は利用しなくなっているのは、40歳以上の年齢層の男性勤務者である傾向が強いことがわかる。

来館者調査の結果では、休日では特に平日で少なかった40歳代の男性勤務者の利用が目立っていただけに、項を改めて図書館離れの理由を詳しく分析する。

未だ図書館を利用したことのない＜未利用＞のグループでは、男性が53.9%、女性が46.1%と＜前利用＞のグループより両者の割合は拮抗しているが、やはり男性の方が高い。年齢は50歳代23.9%、60歳以上34.3%と50歳代以降の高年齢層において高くなっている。職種では、勤務者42.2%、無職29.6%、主婦20.0%の順である。

年齢が高くなるにつれて、＜非利用＞の割合が高くなることは従前から指摘されているところではあるが、北広島市の場合は来館者調査、登録者調査⁵⁾の報告で示したように、60歳以上の高年齢者の図書館への来館者比率、図書館利用登録率は市民全体の年齢階層別比率よりも上回っていた。

非図書館利用者獲得のためには40歳代以降の勤務者と高齢者への新たなサービスの充実と広報活動の仕方が鍵を握っていると言える。

表 3－2 <利用・前利用・未利用別>

人数(%)

グループ		① 利 用	② 前利用	③ 未利用	④ 非利用 (②+③)	合 計 (①+②+③)
属 性						
有効回答数(%) * 1		230 (44.2)	60 (11.5)	230 (44.2)	290 (55.8)	520 (100.0)
性 別	男 性	97 (42.2)	34 (56.7)	124 (53.9)	158 (54.5)	255 (49.0)
	女 性	133 (57.8)	26 (43.3)	106 (46.1)	132 (45.5)	265 (51.0)
	合 計	230 (100.0)	60 (100.0)	230 (100.0)	290 (100.0)	520 (100.0)
年 齢	0～5歳	6 (2.6)	1 (1.7)	13 (5.7)	14 (4.8)	20 (3.8)
	6～12歳	27 (11.7)	2 (3.3)	2 (0.9)	4 (1.4)	31 (6.0)
	13～15歳	15 (6.5)	7 (11.7)	1 (0.4)	8 (2.8)	23 (4.4)
	16～19歳	18 (7.8)	3 (5.0)	9 (3.9)	12 (4.1)	30 (5.8)
	20～29歳	23 (10.0)	4 (6.7)	25 (10.9)	29 (10.0)	52 (10.0)
	30～39歳	34 (14.8)	6 (10.0)	25 (10.9)	31 (10.7)	65 (12.5)
	40～49歳	28 (12.2)	13 (21.7)	21 (9.1)	34 (11.7)	62 (11.9)
	50～59歳	36 (15.7)	12 (20.0)	55 (23.9)	67 (23.1)	103 (19.8)
	60歳以上	43 (18.7)	12 (20.0)	79 (34.3)	91 (31.4)	134 (25.8)
	合 計	230 (100.0)	60 (100.0)	230 (100.0)	290 (100.0)	520 (100.0)
職 業	農業	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.9)	2 (0.7)	2 (0.4)
	商工サービス自営業	3 (1.3)	1 (1.7)	5 (2.2)	6 (2.1)	9 (1.7)
	勤務者 (小計)	61 (26.5)	20 (33.3)	97 (42.2)	117 (40.3)	178 (34.2)
	勤 務 者 内 訳	専門・技術職	20 (8.7)	5 (8.3)	15 (6.5)	20 (6.9)
		管理職	4 (1.7)	1 (1.7)	14 (6.1)	15 (5.2)
		事務関係	16 (7.0)	7 (11.7)	12 (5.2)	19 (6.6)
		販売関係	2 (0.9)	2 (3.3)	11 (4.8)	13 (4.5)
		サービス関係	7 (3.0)	1 (1.7)	10 (4.3)	11 (3.8)
		保安職業関係	1 (0.4)	2 (3.3)	1 (0.4)	3 (1.0)
		農林漁業	0 (0.0)	1 (1.7)	1 (0.4)	2 (0.7)
		運輸・通信関係	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (3.5)	8 (1.5)
		技能工・建設及び労務作業者	6 (2.6)	0 (0.0)	7 (3.0)	7 (2.4)
		その他	5 (2.2)	1 (1.7)	18 (7.8)	19 (6.6)
	主婦 (パートを含む)	48 (20.9)	13 (21.7)	46 (20.0)	59 (20.3)	107 (20.6)
	学生	70 (30.4)	15 (25.0)	12 (5.2)	27 (9.3)	97 (18.7)
	無職	48 (20.9)	11 (18.3)	68 (29.6)	79 (27.2)	127 (24.4)
	合 計	230 (100.0)	60 (100.0)	230 (100.0)	290 (100.0)	520 (100.0)
通学動 先	北広島市内	76 (34.5)	20 (33.9)	52 (23.0)	72 (25.3)	148 (29.3)
	北広島市外	69 (31.4)	22 (37.3)	76 (33.6)	98 (34.4)	167 (33.1)
	なし	75 (34.1)	17 (28.8)	98 (43.4)	115 (40.4)	190 (37.6)
	合 計 * 2	220 (100.0)	59 (100.0)	226 (100.0)	285 (100.0)	505 (100.0)
学 歴	小・中学校	41 (18.4)	10 (16.9)	44 (19.6)	54 (19.1)	95 (18.8)
	高等学校	89 (39.9)	17 (28.8)	87 (38.8)	104 (36.7)	193 (38.1)
	短大・高専	39 (17.5)	14 (23.7)	36 (16.1)	50 (17.7)	89 (17.6)
	大学	40 (17.9)	14 (23.7)	40 (17.9)	54 (19.1)	94 (18.6)
	大学院	6 (2.7)	0 (0.0)	2 (0.9)	2 (0.7)	8 (1.6)
	その他	8 (3.6)	4 (6.8)	15 (6.7)	19 (6.7)	27 (5.3)
	合 計 * 3	223 (100.0)	59 (100.0)	224 (100.0)	283 (100.0)	506 (100.0)

* 1 利用の有無が不明の者22名を除く

* 2 通勤・通学先が不明の者、<利用>10名、<前利用>1名、<未利用>4名を除く

* 3 最終学歴(あるいは在学中の学校)が不明の者、<利用>7名、<前利用>1名、<未利用>6名を除く

3-3 <利用>グループの主な利用館と利用頻度

<利用>のグループの主な利用館と利用頻度を見たものが<表3-3>、<表3-4>である。本館利用者が87.8%と圧倒的に多く、次いで分室及び最寄りの移動図書館が12.2%となっている。利用頻度は貸出期限ごとに図書館を訪れる日常的・習慣的利用者（「1ヶ月に2～3回」）38.6%がトップで、次いで何か目的が生じたときに図書館に出かけて行く目的利用者（「年に数回」）が35.0%、その中間的な利用頻度の（「1ヶ月に1回位」）が15.2%で続いている。

今回の住民調査における<利用>のグループは登録者であるから、当然のことながら主利用館も利用頻度も登録者調査時の数値と類似した結果が現れている。

表3-3 <利用者の主な利用館>

単位： 人数（%）

館 種		住民調査（利用）		登録者調査＊1	
本 館		202（ 87.8）		640（ 80.6）	
分室・移動	団地住民センター図書室	1（ 0.4）	28（ 12.2）	29（ 3.7）	98（ 12.3）
	大曲会館図書室	16（ 7.0）		39（ 4.9）	
	西の里公民館図書室	10（ 4.3）		21（ 2.6）	
	農民研修センター図書室	0（ 0.0）		4（ 0.5）	
	最寄りの移動図書館	1（ 0.4）		5（ 0.6）	
北広島市外の図書館		0（ 0.0）		56（ 7.1）	
合 計		230（100.0）		794（100.0）	

* 1 平成15年6月の登録者調査による登録者の主利用館の値である

表3-4 <利用頻度>

単位：人数（%）

利 用 頻 度	住民調査（利用）	登録者調査*1
ほとんど毎日	2 (0.9)	7 (0.9)
週に1回程度	16 (7.2)	85 (11.0)
1ヶ月に2～3回	86 (38.6)	265 (34.3)
1ヶ月に1回位	34 (15.2)	165 (21.4)
年に数回	78 (35.0)	232 (30.1)
それ以下	7 (3.1)	18 (2.3)
合 計 *2	223 (100.0)	772 (100.0)

* 1 平成15年6月の登録者調査による登録者の利用頻度の値である

* 2 住民調査での利用頻度不明者7名を除く

4. 図書館を利用できない・しない理由

＜前利用＞、＜未利用＞のグループの者に、「図書館を利用できない・しない理由」を選択肢の中から2つまでの回答を認めて選択してもらった。選択肢の理由は表4-1に挙げた12項目であり、A～Dの4つに類別して以下に示す（○数字は理由の項目番号である）。

A. 分館(分室)の配置や、開館時間や資料構成といった図書館側に起因する運営全般に関するもの。 ＜市民の側からすると外的要因＞

①「図書館が近くにない」、③「開館時間中に利用できない」、④「読みたいような本が図書館にない」の理由3つ。

B. 図書館の広報活動の強化や、日常のイメージアップ努力により改善が見込めるもの。 ＜広報・イメージ的要因＞

②「図書館の場所を知らない」、⑤「図書館に入りにくい」、⑥「利用手続きが面倒だと思う」、⑦「図書館は学生の勉強の場だと思う」の理由4つ。

C. 市民の側の読書観や図書館に対する意識などによるもの。

＜市民の側の内的要因＞

⑨「本は自分で買って読む」、⑩「本を読もうとは思わない」、⑪「図書館を利用する必要がない」の理由3つ。

D. AとCとの中間として位置づけられるもの。

⑧「学校や職場、市外の図書館を利用している」という理由。

これらの11項目に⑫「その他」を加えて12項目とした。

4-1 全 体

＜前利用＞、＜未利用＞を合わせた＜非利用＞における理由の比率では、⑨「本は自分で買って読む」が40.0%で最も多く、次いで①「図書館が近くにない」22.0%、③「開館時間中に利用できない」20.8%となっており、この上位3つの理由で約8割を占めている。

＜前利用＞、＜未利用＞別に見ると、どちらのグループも⑨「本は自分で買って読む」が40%前後でトップになっており、図書館本来の機能である「本を利用する」という面では図書館を必要としていないことが分かる。

＜前利用＞のグループでは、④「読みたいような本が図書館にない」が23.9%と2位を占めており、一度登録し利用してはみたが自分の読みたい本が無かったので利用をやめたという利用体験に基づく、蔵書構成や資料の量を不満とする住民が多い。資料の充実を図り、一度獲得した利用者は離さない努力が必要である。

＜未利用＞のグループでは、①「図書館が近くにない」が23.6%で2位、次いで③「開館時間中に利用できない」21.6%、⑪「図書館を利用する必要がない」15.6%、②「図書館の場所を知らない」11.1%の順である。

この＜未利用＞グループではA～Cの範疇の理由を幅広く挙げているのが特徴である。Cの市民の側の＜内的要因＞を変えることは難しいと思われるが、A＜外的要因＞、B＜広報・イメージ要因＞は図書館側の努力により改善が可能な要因である。

表4－1 ＜利用できない・しない理由＞

人数(%)

理 由 (2つまで)	グループ	② 前利用 * 2	③ 未利用 * 3	④ 非利用 (②+③)
有効回答者数 (%)		46 (18.8)	199 (81.2)	245 (100.0)
1. 図書館が近くにない		7 (15.2)	47 (23.6)	54 (22.0)
2. 図書館の場所を知らない		0 (0.0)	22 (11.1)	22 (9.0)
3. 開館時間中に利用できない		8 (17.4)	43 (21.6)	51 (20.8)
4. 読みたいような本が図書館にない		11 (23.9)	12 (6.0)	23 (9.4)
5. 図書館に入りにくい		1 (2.2)	4 (2.0)	5 (2.0)
6. 利用手続きが面倒だと思う		2 (4.3)	8 (4.0)	10 (4.1)
7. 図書館は学生の勉強の場だと思う		0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.4)
8. 学校や職場、市外の図書館を利用している		6 (13.0)	10 (5.0)	16 (6.5)
9. 本は自分で買って読む		18 (39.1)	80 (40.2)	98 (40.0)
10. 本を読もうとは思わない		6 (13.0)	21 (10.6)	27 (11.0)
11. 図書館を利用する必要がない		4 (8.7)	31 (15.6)	35 (14.3)
12. その他		15 (32.6)	36 (18.1)	51 (20.8)

* 1 理由2つまでの選択を認めているので合計は100%を越える

* 2 ＜前利用＞の有効サンプル数は理由不明の者14名を除いた46名である

* 3 ＜未利用＞の有効サンプル数は理由不明の者31名を除いた199名である

4-2 性 別

性別で見ると、男女とも⑨「本は自分で買って読む」が最も多く約40%を占めている。次位は男性では③「開館時間中に利用できない」が27.7%、女性では①「図書館が近くにない」が26.1%と利用しない理由に差が見られる<表4-2>。

このことは、男性勤務者は本館志向が強く、「内容重視型」の利用であったこと、分室・移動図書館の利用者は主婦と児童が中心であり、「アクセス・慣れ重視型」の利用であったことなどといった登録者調査結果と符合する。

表4-2 <利用できない・しない理由（性別）> 人数(%)

理 由（2つまで）	性 別	男 性	女 性	合 計
有効回答者数（%）		130 (53.1)	115 (46.9)	245 (100.0)
1. 図書館が近くにない		24 (18.5)	30 (26.1)	54 (22.0)
2. 図書館の場所を知らない		11 (8.5)	11 (9.6)	22 (9.0)
3. 開館時間中に利用できない		36 (27.7)	15 (13.0)	51 (20.8)
4. 読みたいような本が図書館にない		6 (4.6)	17 (14.8)	23 (9.4)
5. 図書館に入りにくい		3 (2.3)	2 (1.7)	5 (2.0)
6. 利用手続きが面倒だと思う		4 (3.1)	6 (5.2)	10 (4.1)
7. 図書館は学生の勉強の場だと思う		1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.4)
8. 学校や職場、市外の図書館を利用している		13 (10.0)	3 (2.6)	16 (6.5)
9. 本は自分で買って読む		53 (40.8)	45 (39.1)	98 (40.0)
10. 本を読もうとは思わない		14 (10.8)	13 (11.3)	27 (11.0)
11. 図書館を利用する必要がない		20 (15.4)	15 (13.0)	35 (14.3)
12. その他		23 (17.7)	28 (24.3)	51 (20.8)

* 1 理由2つまでの選択を求めているので合計は100%を越える

* 2 有効サンプル数は利用していない理由不明の者45名をのぞいた245名である

4-3 年 齢 別

年齢別では、「13～19歳」は①「図書館が近くにない」52.9%、③「開館時間中に利用できない」35.3%、⑧「学校や職場、市外の図書館を利用している」23.5%の順である。移動手段として自家用車を利用できない未成年者層にとっては、図書館までの距離が遠いことが最大の利用阻害要因であり、日常生活時間との兼ね合いからも学校の図書館を利用しているこ

とが窺われる。一方、20歳以上になると、⑨「本は自分で買って読む」が一番の非利用理由となる。中でも、「30～39歳」46.2%、「50～59歳」49.2%、「60歳以上」48.6%と高い割合を示しており、購買力の高い年齢層であることが分かる。次いで、「20～49歳」までの年齢層で①「図書館が近くにない」、「30～59歳」までの年齢層で③「開館時間中に利用できない」などといった市民の側からすると物理的な外的要因が20%台の高い割合を示している。また、「50歳以上」の年齢層では⑩「図書館を利用する必要がない」とする者が約20%存在しており、図書館に無関心な層であることを窺わせている。3－2項で前述したように、年齢が高くなるに連れて、＜非利用＞の割合が高くなることは従前から指摘されているところではあるが、北広島市の場合、50歳代以上の高年齢層の図書館利用登録率、来館者比率は市民全体の年齢階層別比率を上回っていた。今回の住民調査でも50歳以上の場合、＜利用＞のグループの数は少ないが、ほとんどの者が高頻度利用者であり、常連である。これらのことから、高年齢者の場合は、他の世代よりも図書館を比較的活発に利用する者と、まったく利用しない者とはっきり分極化していることがわかる。

表 4－3 ＜利用できない・しない理由（年齢別）＞ 人数(%)

理由(2つまで)	年 齢	0～12歳	13～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	合 計
有効回答者数 (%)		10(4.1)	17(6.9)	28(11.4)	26(10.6)	31(12.7)	59(24.1)	74(30.2)	245(100.0)
1. 図書館が近くにない		1(10.0)	9(52.9)	8(28.6)	6(23.1)	8(25.8)	9(15.3)	13(17.6)	54(22.0)
2. 図書館の場所を知らない		2(20.0)		4(14.3)	4(15.4)	2(6.5)	6(10.2)	4(5.4)	22(9.0)
3. 開館時間中に利用できない			6(35.3)	4(14.3)	6(23.1)	10(32.3)	13(22.0)	12(16.2)	51(20.8)
4. 読みたいような本が図書館にない			3(17.6)	3(10.7)	2(7.7)	3(9.7)	3(5.1)	9(12.2)	23(9.4)
5. 図書館に入りにくい			1(5.9)	1(3.6)		2(6.5)	1(1.7)		5(2.0)
6. 利用手続きが面倒だと思う			1(5.9)	1(3.6)		2(6.5)	4(6.8)	2(2.7)	10(4.1)
7. 図書館は学生の勉強の場だと思う						1(3.2)			1(0.4)
8. 学校や職場、市外の図書館を利用している		1(10.0)	4(23.5)	3(10.7)	1(3.8)	2(6.5)	3(5.1)	2(2.7)	16(6.5)
9. 本は自分で買って読む		1(10.0)		10(35.7)	12(46.2)	10(32.3)	29(49.2)	36(48.6)	98(40.0)
10. 本を読もうとは思わない			3(17.6)	5(17.9)	3(11.5)	5(16.1)	4(6.8)	7(9.5)	27(11.0)
11. 図書館を利用する必要がない		1(10.0)		2(7.1)	2(7.7)	2(6.5)	13(22.0)	15(20.3)	35(14.3)
12. その他		6(60.0)	3(17.6)	2(7.1)	4(15.4)	9(29.0)	9(15.3)	18(24.3)	51(20.8)

* 1 理由 2 つまでの選択を求めているので合計は100%を超える

* 2 有効サンプル数は利用していない理由不明の者45名をのぞいた245名である

4-4 職業別

職業別では、勤務者は⑨「本は自分で買って読む」38.8%、③「開館時間中に利用できない」33.0%、主婦は⑨「本は自分で買って読む」56.9%、①「図書館が近くにない」25.5%、学生は①「図書館が近くにない」50.0%、⑧「学校の図書館を利用している」27.3%、③「開館時間中に利用できない」27.3%、無職は⑨「本は自分で買って読む」39.3%、①「図書館が近くにない」19.7%のように、職業により利用できない理由に差が見られる。

「本は自分で買って読む」という住民の読書に対する意識や考え方の違いによる要因と、「学校や他の図書館を利用している」というすでに利用している要因を除くと、図書館側は開館時間を延長したり、休館日の曜日変更等を行うことにより勤務者層を、分室・BM等の図書館網のより一層の充実を図ることにより小さな子供を持つ主婦層や高齢者の無職層を、新たな図書館利用者として取り込むことが可能であることを示している。

表4-4 <利用できない・しない理由（職業別）> 人数(%)

理由(2つまで)	職業	農業	商工	勤務(小計)	勤務(専門・技術・管理職)	勤務(事務)	勤務(販売)	勤務(サービス)	勤務(保安職)	勤務(農林漁業)	勤務(運輸・通信)	勤務(技術・建設)	勤務(その他)	主婦	学生	無職	合計
有効回答者数(%)		2 (0.8)	6 (2.4)	103 (42.0)	19 (7.8)	15 (6.1)	13 (5.3)	9 (3.7)	2 (0.8)	2 (0.8)	8 (3.3)	6 (2.4)	16 (6.5)	51 (20.8)	22 (9.0)	61 (24.3)	245 (100.0)
1. 図書館が近くにない		1 (50.0)		17 (16.5)	3 (15.8)	1 (6.7)	2 (15.4)	3 (33.3)			2 (25.0)	1 (16.7)	3 (18.8)	13 (25.5)	11 (50.0)	12 (8.2)	54 (22.0)
2. 図書館の場所を知らない				12 (11.7)	3 (15.8)	1 (6.7)	2 (15.4)	1 (11.1)			1 (12.5)	1 (16.7)	3 (18.8)	4 (7.8)	1 (4.5)	5 (8.2)	22 (9.0)
3. 開館時間中に利用できない		1 (50.0)	1 (16.7)	34 (33.0)	4 (21.1)	7 (46.7)	3 (23.1)	5 (38.5)	4 (44.4)	1 (50.0)	1 (12.5)	2 (33.3)	6 (37.5)	5 (9.8)	6 (27.3)	4 (6.6)	51 (20.8)
4. 読みたいような本が図書館にない				6 (5.8)	2 (10.5)	1 (7.7)		1 (11.1)					2 (12.5)	9 (17.6)	3 (13.6)	5 (8.2)	23 (9.4)
5. 図書館に入りにくい				2 (1.9)		1 (6.7)				1 (50.0)				2 (3.9)	1 (4.5)		5 (2.0)
6. 利用手続きが面倒だと思う		1 (16.7)	4 (3.9)				1 (7.7)	1 (7.7)					2 (12.5)	3 (5.9)	1 (4.5)	1 (1.6)	10 (4.1)
7. 図書館は学生の勉強の場だと思う				1 (1.0)			1 (7.7)										1 (0.4)
8. 学校や職場、市外の図書館を利用している				8 (7.8)	4 (21.2)	2 (15.4)							2 (12.5)	1 (2.0)	6 (27.3)	1 (1.6)	16 (6.5)
9. 本は自分で買って読む		1 (50.0)	3 (50.0)	40 (38.8)	8 (42.1)	6 (40.0)	5 (38.5)	5 (38.5)	1 (100.0)	2 (50.0)	1 (12.5)	4 (33.3)	2 (37.5)	6 (56.9)	29 (45.0)	1 (4.5)	98 (40.0)
10. 本を読むとは思わない		1 (50.0)	1 (16.7)	14 (13.6)			3 (23.1)	1 (7.7)	4 (44.4)	1 (50.0)	2 (25.0)	1 (16.7)	2 (12.5)	2 (3.9)	2 (9.1)	7 (11.5)	27 (11.0)
11. 図書館を利用する必要がない			1 (16.7)	12 (11.7)	4 (21.1)	2 (13.3)	1 (7.7)	1 (7.7)	1 (11.1)		2 (25.0)			1 (6.3)	6 (11.8)	1 (4.5)	35 (14.3)
12. その他			2 (33.3)	15 (14.6)	3 (15.8)	5 (33.3)	2 (15.4)	1 (7.7)		1 (50.0)			2 (33.3)	1 (6.3)	10 (19.6)	4 (18.2)	51 (20.8)

* 1 理由2つまでの選択を求めているので合計は100%を越える

* 2 有効サンプル数は利用していない理由不明の者45名をのぞいた245名である

4－5 通勤・通学先別

通勤・通学先別に「利用できない・しない理由」をまとめたものが<表 4－5>である。通勤・通学先が<なし>の者では、⑨「本は自分で買って読む」が48.9%と最も高い。これは、先の年齢別と合わせると、定年退職した購買力の高い年齢層であることが分かる。また、通勤・通学先が<市外>の者は、<市内>のものよりも③「開館時間中に利用できない」という理由を挙げている割合が高いことが分かる。

表 4－5 <利用できない・しない理由 (通勤・通学先別)> 人数(%)

理由(2つまで)	市 内	市 外	な し	合 計
有効回答者数 (%)	62 (25.6)	86 (35.5)	94 (38.8)	242 (100.0)
1. 図書館が近くにない	17 (27.4)	17 (19.8)	19 (20.2)	53 (21.9)
2. 図書館の場所を知らない	6 (9.7)	7 (8.1)	8 (8.5)	21 (8.7)
3. 開館時間中に利用できない	17 (27.4)	27 (31.4)	7 (7.4)	51 (21.1)
4. 読みたいような本が図書館にない	7 (11.3)	6 (7.0)	9 (9.6)	22 (9.1)
5. 図書館に入りにくい	0 (0.0)	4 (4.7)	1 (1.1)	5 (2.1)
6. 利用手続きが面倒だと思う	4 (6.5)	2 (2.3)	4 (4.3)	10 (4.1)
7. 図書館は学生の勉強の場だと思う	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)
8. 学校や職場、市外の図書館を利用している	3 (4.8)	12 (14.0)	1 (1.1)	16 (6.6)
9. 本は自分で買って読む	23 (37.1)	29 (33.7)	46 (48.9)	98 (40.5)
10. 本を読むとは思わない	6 (9.7)	13 (15.1)	7 (7.4)	26 (10.7)
11. 図書館を利用する必要がない	6 (9.7)	11 (12.8)	17 (18.1)	34 (14.0)
12. その他	10 (16.1)	12 (14.0)	29 (30.9)	51 (21.1)

* 1 理由 2 つまでの選択を求めているので合計は100%を越える

* 2 有効サンプル数は通勤・通学先不明者 5 名、及び利用していない理由不明の者43名を除いた242名である

4－6 学 歴 別

学歴別では「利用できない・しない理由」に大きな差は見られない。図書館を利用しない理由として最も多い⑨「本は自分で買って読む」ということに注目すると、学歴が高くなるにつれて割合が高くなっていることが分かる。

3－1 項の図書館利用者のところでも述べたが、一般的に教育レベルが高くなるほど<利用>の率が高くなる傾向にあると言われているが、それはむしろ読書量の増加と密接な関連があるものと思われ、今回調査からは

<図書館利用>に関しては学歴の影響は認められない。一方で<非利用>においては、教育レベルが高くなるに連れて図書の所有欲が強まっていく傾向が認められる。

表 4－6 <利用できない・しない理由（学歴別）> 人数(%)

理由(2つまで)	学 歴	小・中	高校	短大・ 高 専	大 学	大学院	その他	合 計
有効回答者数 (%)		44(18.3)	89(36.9)	44(18.3)	50(20.7)	2(0.8)	12(5.0)	241(100.0)
1. 図書館が近くくない		12(27.3)	17(19.1)	10(22.7)	11(22.0)	1(50.0)		51(21.2)
2. 図書館の場所を知らない		4(9.1)	8(9.0)	2(4.5)	4(8.0)		2(16.7)	20(8.3)
3. 開館時間中に利用できない		7(15.9)	21(23.6)	8(18.2)	14(28.0)		1(8.3)	51(21.2)
4. 読みたいような本が図書館にない		8(18.2)	5(5.6)	3(6.8)	7(14.0)			23(9.5)
5. 図書館に入りにくい			4(4.5)		1(2.0)			5(2.1)
6. 利用手続きが面倒だと思う		2(4.5)	3(3.4)	2(4.5)	2(4.0)		1(8.3)	10(4.1)
7. 図書館は学生の勉強の場だと思う			1(1.1)					1(0.4)
8. 学校や職場、市外の図書館を利用している		2(4.5)	5(5.6)	3(6.8)	6(12.0)			16(6.6)
9. 本は自分で買って読む		13(29.5)	37(41.6)	19(43.2)	23(46.0)	2(100.0)	3(25.0)	97(40.2)
10. 本を読もうとは思わない		6(13.6)	10(11.2)	7(15.9)	2(4.0)		2(16.7)	27(11.2)
11. 図書館を利用する必要がない		9(20.5)	11(12.4)	6(13.6)	7(14.0)	1(50.0)		34(14.1)
12. その他		10(22.7)	22(24.7)	6(13.6)	7(14.0)		6(50.0)	51(21.2)

* 1 理由 2 つまでの選択を求めているので合計は100%を越える

* 2 有効サンプル数は利用していない理由不明の者42名をのぞいた241名である

4－7 既存調査との比較

国内での同種調査としては内閣府政府広報室による「読書・公共図書館に関する調査」^⑥があり、1979年9月、1989年6月に実施されている。両者ともその調査の中で「この1年間に公共図書館を利用しなかった」と回答した者に、利用しなかった理由を3つまでの選択を認めている。また、今回調査同様に、利用しなかった理由を2つまでの選択を認めている1986年6月の千葉県柏市における柏市住民調査^⑦の結果を合わせてまとめたものが<表4－7>である。今回調査の理由項目と一致していないものは空欄とし、理由が同一のもののみ数値(百分率)を記載した。

北広島市民は内閣府の全国調査に比べて、⑩「本を読もうと思わない」や⑪「図書館を利用する必要がない」という本を読まないと見なせる理由を挙げている者が少なく、⑨「本は自分で買って読む」が40%も占めてお

り、全体として市民の読書意欲は旺盛であると言える。

①～⑦までの理由で図書館を利用しかねているような市民は、図書館利用の状況が整備されれば、再びないし新しく図書館利用者層に転換し得る可能性が高い潜在的図書館利用者層である。しかし、①「図書館が近くにない」、③「開館時間中に利用できない」等の理由はいずれの調査においても同様に高い数値を示したままであり、簡単なようであり長い間なかなか改善が進んでいない要素であることが見てとれる。

図書館ではないが、北海道旭川市が経営する市営旭山動物園⁸⁾の平成16年7、8月の月間入園者数が東京・上野動物園を抜いて全国一になったことがテレビ、新聞等で報じられ話題になった。かつては入園者数が激減し、閉園の危機にもあった旭山動物園が再生したのは、職員のユニークな発想と地道な努力による営業サービスの向上によるものである。同じ公務員である立場の、職員の情熱が火付け役となっており、今後、行政が改めて行かなければならないものがそこにはあるように思える。図書館運営にも博物館、美術館、水族館、動物園等の施設運営の良い面はどんどん採り入れ

表4-7 <図書館を利用しない理由（既存調査との比較）> 単位：（％）

理由*2	調査名 内閣府調査 1979年9月	内閣府調査 1989年6月	柏市調査 1986年6月	北広島市調査 2003年6月
有効回答者数	2,095人	1,931人	1,190人	245人
1. 図書館が近くにない	27.7	37.1	20.1	22.0
3. 開館時間中に利用できない	15.5	22.4	21.9	20.8
4. 読みたいような本が図書館にない	6.7	7.0	8.0	9.4
2. 図書館の場所を知らない		6.6	5.8	9.0
5. 図書館に入りにくい			0.6	2.0
6. 利用手続きが面倒だと思う			3.2	4.1
7. 図書館は学生の勉強の場だと思う			0.7	0.4
8. 学校や職場、市外の図書館を利用している	4.3	3.7	12.4	6.5
9. 本は自分で買って読む	11.8	25.0	25.2	40.0
10. 本を読むとは思わない	22.6	18.1	3.3	11.0
11. 図書館を利用する必要がない	16.9		10.4	14.3
12. その他	5.2	11.6		20.8

* 1 今回調査の理由に該当しなかったものは割合の数値が空欄になっている

* 2 内閣府調査は理由3つまで、柏市及び北広島市調査は理由2つまでの選択を認めているので合計は100%を越える

ていくべきであろう。

分室・分館の適正な配置やBMの巡回、蔵書内容の再検討や広報活動の強化に加え、さらにはインターネットの開放やコンピュータ講習会、映画上映会やコンサートのような図書利用以外でも図書館がコミュニティ施設として利用されるような企画の実施など、新たな図書館側の努力があれば不読者層をも惹きつけることが可能であると思われる。

5. まとめ

本稿では、図書館非利用者を含む市民を対象として実施した北広島市住民調査の結果をもとに、「図書館を未だ利用していない（未利用）」人々や、「以前には利用していたが現在は利用しなくなってしまった（前利用）」人々がどのような属性の集団で、どうして「図書館を利用できない・しない」のかの理由を分析、考察した。

内容をまとめると以下のように要約される。

- (1) 男性では62.0%が＜非利用（前利用＋未利用）＞であるのに対し、女性では逆に50.2%が＜利用＞であり、女性の方が男性よりも図書館利用者が多い。
- (2) 20歳以上では30歳代を除き、すべての年齢層で＜非利用＞が＜利用＞を上回っており、年齢が高くなるに連れて＜非利用＞の率が高くなっている。
- (3) 一般的に教育レベルが高くなるほど＜利用＞の率が高くなる傾向にあると言われているが、小学生から大学生までの各学歴において、＜利用＞はほぼ同様に40%台の割合を示しており、むしろ今回調査からは学歴の影響は認められないと言える。
- (4) 図書館を以前に利用していたが何らかの理由で今は利用しなくなってしまっている属性は、40歳以上の年齢層の男性勤務者である傾向が強い。

- (5) <非利用（前利用＋未利用）>における理由の比率は、「本は自分で買って読む」が40.0%で最も多く、次いで「図書館が近くにない」22.0%、「開館時間中に利用できない」20.8%となっており、この上位3つの理由で約8割を占めている。
- (6) <前利用>のグループでは、「読みたいような本が図書館にない」が23.9%と2位を占めており、一度登録し利用してはみたが自分の読みたい本が無かったので利用をやめたという利用体験に基づく、蔵書構成や資料の量を不満とする住民が多い。一方、<未利用>のグループでは、「図書館が近くにない」が23.6%で2位、次いで「開館時間中に利用できない」21.6%、「図書館を利用する必要がない」15.6%、「図書館の場所を知らない」11.1%の順で非利用理由が幅広い。
- (7) <非利用>のグループでは、男女とも「本は自分で買って読む」が最も多く約40%を占めている。次位は、男性では「開館時間中に利用できない」が27.7%、女性では「図書館が近くにない」が26.1%と、次位の利用しない理由に差が見られる。
- (8) <非利用>グループにおいては、教育レベルが高くなるに連れて図書の所有欲が強まっていく傾向が認められる。
- (9) 50歳以上の場合、<利用>のグループの数は少ないが、ほとんどの者が高頻度利用者であり、常連である。高年齢者の場合は、他の世代よりも図書館を比較的活発に利用する人と、まったく利用しない人とははっきり分極化している。
- (10) 北広島市民は内閣府の全国調査に比べて、「本を読もうと思わない」や「図書館を利用する必要がない」という本を読まないと見なせる理由を挙げている人が少なく、「本は自分で買って読む」が40%も占めており、全体として市民の読書意欲は旺盛であると言える。

〈注〉

- 1) 図書館年鑑2004（日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編）によると、2003年の図書館設置率は全国で52.5%、登録率は35.3%である。北海道のみに限定すると、設置率49.5%、登録率29.9%と全国平均よりやや低めである。
- 2) 北広島市では、女性と男性がともに家庭や社会のあらゆる分野に平等に参画する「男女平等参画社会」を実現するため、平成14年に「きたひろしま男女平等参画プラン」をつくり、男女平等参画社会づくりに向けて歩み始めている。それに伴い、平成15年度市政モニター事業として「男女平等参画に関する市民意識調査」を実施し、統計データを得ようとしたものである。
- 3) 平成15年6月に同時に実施した登録者調査時の登録率は29.5%（図書館登録者17,143人÷北広島市全人口58,038人×100＝図書館登録率29.5%）である。これは、調査時点で使用した登録者リストとして、平成13年10月に利用登録の更新処理を行い、2年以上利用していない休眠利用者を除いた平成13年度最新版の登録者リストを用いているためである。
- 4) 北広島市図書館本館において、平成14年11月12日（火曜日）と同23日（土曜日、祝日：勤労感謝の日）の2日間に亘って、開館時から閉館時まで終日来館者を対象にアンケート方式で来館者調査を行った。平日と休日での利用の差異を明らかにすることを目的としたものである。
- 5) 平成15年6月に、13歳以上の北広島市図書館利用登録者の中から約10%無作為抽出し、調査票による郵送アンケート方式で登録者調査を実施した。図書館利用登録者を最近隣館と主利用館を軸として8類型4パターンに分類し、それぞれの利用実態を把握することを目的としたものである。
- 6) 内閣府政府広報室による世論調査の一つで、国民の読書についての意

識、公共図書館の利用及び問題点などに対する意識を調査し、今後の施策の参考とすることを目的としたものである。

1979年9月調査における調査項目は、①日常生活の知識や情報の入手源、②読書、③図書館の利用状況、④公共図書館の利用状況である。1989年6月調査における調査項目は、①日常の知識や情報の入手源、②読書に対する意識、③公共図書館に対する意識である。調査対象及び方法は、両者ともア)母集団：全国15歳以上の者、イ)標本数：3,000人、ウ)抽出方法：層化2段無作為抽出法、である。

- 7) 図書館非利用者の属性や行動様式の特徴をとらえるためには、図書館利用者と非利用者を含めた包括的な調査が必要である。そこで、植松貞夫(筑波大教授)らが千葉県柏市で昭和61(1986)年6月に実施した生徒調査の際に調査対象とした各小学校5年生の家族全員を対象者として、アンケート調査方式により回答を得たものである。この調査は小学校5年生の家族だけを対象としていることから、対象者の年齢に偏りがあり、50歳代と10歳代後半から20歳代の層が含まれることが少なく、分析の母集団が市民全体の構成をそのまま反映したものとはなっていない点に注意を要する。

- 8) 昭和42年(1967年)7月1日に開園した旭川市旭山動物園は、動物園ブームが去った1980年代に入り、入園者が減少。エキノコックスの影響もあり、1996年度には26万人台まで落ち込んでいたが、ここ数年は「もうじゅう館」や「ペンギん館」など、ユニークな施設改装で人気が沸騰した。平成16年度は、6月に新施設「あざらし館」がオープンしたこともあり、さらに爆発的人気となり、7・8月の月間入園者数は東京・上野動物園を抜き、2ヶ月連続全国一になったと共に、9月20日に入園者100万人を突破し、この話題はテレビ・新聞等で頻繁に取り上げられた。

問4 皆様の通勤・通学先を教えてください。

- 1 北広島市内 2 北広島市外 3 なし

問5 皆様の学歴(在学中又は最後に卒業した学校)を教えてください。

- 1 小・中学校 2 高等学校(旧制中学を含む) 3 短大・高等専門学校
4 大学 5 大学院 6 その他

問6 皆様は、図書館利用カードを持っているか教えてください。

- 1 持っている 2 持っていない

問7 皆様は、過去1年以内で、北広島市図書館(各地区の図書室を含む)を利用したことがあるか教えてください。

- 1 利用している
2 以前は利用していたが、現在は利用していない
3 利用したことがない

問8 問7で『1 利用している』と答えた方にお聞きます。どちらの図書館を主に利用されているか教えてください。

- 1 本館(北広島市図書館) 2 北広島団地住民センター図書室
3 大曲会館図書室 4 西の里公民館図書室
5 輪厚農民研修センター図書室 6 最寄りの移動図書館
7 北広島市外の図書館

問9 問7で『1 利用している』と答えた方にお聞きます。皆様の図書館等の利用頻度を教えてください。

- 1 ほとんど毎日 2 週に1回程度 3 1ヶ月に2～3回程度
4 1ヶ月に1回程度 5 年に数回程度 6 その他

問10 問7で「1 利用している」以外を選んだ方にお聞きます。北広島市図書館等を利用していない又は利用していない理由は何でしょうか。該当するものを 2 つまで選んで教えてください。

- 1 図書館が近くにない 2 図書館の場所を知らない
3 開館時間中に利用できない 4 読みたいような本が図書館にない
5 図書館に入りにくい 6 利用手続きが面倒だと思う
7 図書館は学生の勉強の場だと思う 8 学校や職場、市外の図書館を利用している
9 本は自分で買って読む 10 本を読もうとは思わない
11 図書館を利用する必要がない 12 その他

質問は以上で終わりです。回答は該当する番号を回答用紙にご記入願います。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

北広島市図書館利用登録・非登録調査回答用紙

※ 同居しているご家族全員の設問に対する回答をこの用紙にご記入願います。

続柄 項目	ご本人	()	()	()	()
問1 性別					
問2 年齢					
問3 職業					
問4 通勤・通学先					
問5 学歴					
問6 図書カード					
問7 図書館の利用					
問8 利用図書館					
問9 図書館等利用頻度					
問10 図書館未利用理由					

ご協力いただき、誠にありがとうございました。大変お手数ですが、返信用封筒にこの回答用紙を入れて6月29日(日)までに投函してくださいませうお願いいたします。